

日本赤十字社



マレーシアの民族衣装で踊りを披露してくれました



浪江町の震災遺構「請戸小学校」を見学

青少年赤十字(JRC)の国際交流事業

日本赤十字社では、青少年赤十字（以下、JRC）の実践目標の一つである「国際理解・親善」を促進し、国内外の青少年赤十字メンバーが交流を深めることを目的として、国際交流事業を行っています。

今年度は19の国と地域からJRCメンバーが令和7年10月24日(金)～11月3日(月・祝)の期間来日し、福島県支部ではマレーシア赤新月社から2名のメンバーを受け入れました。

主に同年代である県内高校生のJRCメンバーとの交流をはかるとともに、震災遺構や東日本大震災伝承館、コミユタンふくしまなども訪問し、福島県についての理解を深めました。

また、県内での滞在中にホームステイをし、日本の家庭における文化や習慣の違いなどを肌で感じてもらえる交流の機会となりました。

マレーシアはイスラム教徒が最も多く、メンバーの一人がイスラム教徒のため、ハラルメニュー（イスラム教の教えに従い豚肉やアルコール等が含まれていない食品）への配慮や1日5回の礼拝があるなどの文化に触れるとともに、スマートフォンを駆使して英語でコミュニケーションを図るなど、県内のJRCメンバーにとっても貴重な学びの機会となりました。



日本赤十字社は、
2027年に150周年を迎えます



松韻学園福島高校にて巻き寿司づくりとけん玉に挑戦

一緒に、救える。



日本赤十字社 福島県支部
Japanese Red Cross Society



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO
2025

大阪・関西万博 ありがとうございます!

2025.4.13 ~ 2025.10.13

来館者数(人) : 31万33人
メッセージ投稿数 : 9万536通
特設サイトの訪問者数 : 148万1,278人



記録的な猛暑が続く中、国際赤十字・赤新月運動館（通称：赤十字パビリオン）の長い列は途切れることがなく、パビリオンスタッフとして全国から参集した日赤職員・ボランティアは一致団結して運営にあたりました。

当支部からも2名の若手職員がスタッフとして参加しました。



8月中の派遣で万博内は猛暑が続いておりましたが、平日でも国内外問わず多くのお客様にお越しいただきました。国際赤十字・赤新月運動館を通じて赤十字運動への理解・共感と人道支援活動の第一歩を踏み出すことのできるきっかけを多くの方々に提供することができたかと思えます。他県の赤十字職員や奉仕団の皆様と運営に携わることができ、大変貴重な経験をさせていただきました。

総務課 主事 戸田 真由

5日間スタッフとして万博に参加いたしました。お客様の誘導から赤十字についての説明まで、貴重な経験をさせていただきました。

活動を通してそれぞれの国の赤十字や他支部との繋がりを改めて感じ、赤十字の一員として気を引き締めて普段の業務と向き合いたいと思いました。

組織振興課 主事

中村 麻佑



全国から集結したスタッフと（前列左：中村主事）



←東日本大震災の後、実際に1ヶ月間石巻赤十字病院正面玄関前に掲げられ続けていた石巻赤十字病院の赤十字旗です。

第14回赤十字ボランティアのつどいを開催



10月22日(水)、郡山市のビッグパレットふくしまにて、赤十字奉仕団員をはじめ関係者約450名参加のもと行いました。

長年にわたり赤十字活動に貢献していただいた功績をたたえ、佐藤宏隆副支部長(副知事)等より表彰伝達を行い、奉仕団4団・奉仕者336名・有功会員10名を表彰しました。

第二部では「紛争下の「生きる力」に寄り添う～イスラエル・ガザ人道危機から見る赤十字の役割～」と題して、赤十字国際委員会(ICRC)駐日代表部 眞壁仁美広報統括官より講演をいただきました。